

専門セクション活動報告書（現地調査）
（産業多様化：札幌大谷大学より）

(1) 担当教員					
所属大学・部局	札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科				
職名	助教				
責任者氏名	山田 政樹				
(2) 活動内容					
事業・活動名	<ul style="list-style-type: none"> ・日本貿易振興機構(JETRO)様訪問(9/23) ・サンクトペテルブルク日本商工会定例会における HaRP 活動紹介(9/23) ・日産マニユファクチャリング Rus 工場見学(9/25) 				
活動時期	令和元年 9 月 22 日 ~ 令和元年 9 月 26 日 (5 日間)				
活動形態	<input type="checkbox"/> 授業	<input type="checkbox"/> 研究指導	<input type="checkbox"/> インターンシップ	<input type="checkbox"/> セミナー	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会
	<input type="checkbox"/> シンポジウム	<input checked="" type="checkbox"/> その他(企業訪問(工場見学))			
対象者及び参加者数	小樽商科大学大学院 教授 旗本 智之 小樽商科大学大学院 教授 玉井 健一 札幌大谷大学 助教 山田 政樹				
本活動に参画した他大学・企業・自治体等	日本貿易振興機構(JETRO)サンクトペテルブルク事務所 日本貿易振興機構(JETRO)モスクワ事務所 Nissan Manufacturing RUS, LLC				
具体的な活動内容(詳細について記入願います)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本貿易振興機構(JETRO)様訪問 ロシアの最近の経済概要, サンクトペテルブルク周辺のビジネス動向についてのヒアリング調査を行った ・サンクトペテルブルク日本商工会定例会における HaRP 活動紹介(9/23) HaRP の活動内容, 特に産業多様化促進に関する紹介を行い, 状況によっては企業などの視察を依頼する可能性がある点に関してご理解を頂いた ・日産マニユファクチャリング Rus 工場見学(9/25) 実際に日産様の工場へ伺い, 工場を視察, NISSAN のロシアで行っている生産活動についてのインタビュー調査を行った 				

(3) 成果・HaRP 事業への貢献

1. 本事業への効果という観点から、得られた成果

NISSAN 様の現地の情報の詳細が手に入ったのが大きな成果となる。ロシア経済の中で車業界は上向きの状況となっており、特に SUV 市場は好調となっていた。工場は組み立てメインで他国の工場からの部品供給を受けて、最終組み立てを行っている。日本人はほぼおらず現地の人材を雇用している状況であった。従業員は大卒が 50%を占めている状況となっていた。初任給のサラリーは約 56,000 ルーブルとなっており、平均勤続年数も 6 年程度となっていた。2016 年以降はグローバル工場の中でも上位(27 中 9 位)、ヨーロッパ内ではトップの工場パフォーマンス(一人が 1 台を作るのにかかる時間)となっており、当初の仮説としていたパフォーマンス懸念はないといっても良い。品質チェックもタブレットを使用し IoT を駆使して行っていた。社員の CSR への意識も高く、社員の 20%はボランティアも行う状況となっていた。技術力やカイゼンに関しても懸念はなく、今後は自分たちで創意工夫を行っていく力をつけさせる必要がある状況となっていた。

現地の大学との連携も行うことも考えられていた。ロシアの経済やビジネス動向、生産現場の状況を考えると、ロシアと日本の学生間でレベル差も少ないと考えられる。今後の人材育成を行うに当たっては、現地大学と日本の大学を協力させ、ともにプロジェクトを行うことや、現地学生と日本の学生とで同時に短期のインターンすることで現地の状況を知り、ネットワークを作りながら学んでいくことが良いと考えられる。

2. 当該活動によりもたらされる他大学への波及効果

基本的に上記の通り、ロシアのディスクリート生産に関して、低い水準のレベルとの仮説を立てている場合は、その仮説が崩れる可能性が高いことが示唆された。そのため、先進国とマニファクチャリングに関して水準が同程度であることを意識した状態での仮説を立てておく必要があると考えられる。それを念頭に置くことにより、日露での人材育成や学生間交流に関して、建設的な関係構築を考えられるようになると考えられる。

(4) 今後の展望

1. 日露交流の拡大・人材育成という観点における展望

事例が 1 社のみとなっており、偏りがある状況となっている。他社の事例、中小企業の事例も集め、そのうえでプラットフォームを作成する必要がある。今回定例会でもお会いした他の自動車会社様には次回は訪問させて頂きたい点についてご快諾頂いた。また、ロシアでスタートアップ支援を行っている、日口の IT 産業界をブリッジするコンサルティング会社へも調査協力をご快諾頂いている。来年以降に訪問し詳細を調査が可能な状況となっている。

(5) その他

ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

他セクションのプラットフォーム作成状況、行っている内容、今後行う内容をお互い共有すると良いと考えられる。



ДОБРО ПОЖАЛОВАТЬ
НА ЗАВОД NISSAN В САНКТ-ПЕТЕРБУРГЕ



写真 1 : 右から山田助教、
玉井教授、篠本教授、サ
ンクトペテルブルク国
立大学佐藤研究員



写真 2 : 篠本教授、山田助
教、JETRO 一瀬所長、玉
井教授、佐藤研究員



写真 3 : サンクトペテルブ
ルク日本商工会定例会
の様子